

まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん

まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん まりすこどもえん



2022年度 年主題「つながって～今、わたしを生きる～」

0・1・2歳児 4月主題 「はじめまして」「よろしくね」
 月のねがい
 ◎神さまからお預かりしたいのちとして大切にされる
 ◎自分のありのままを表現して受け止めてもらう
 ◎保育者と祈ったり、賛美する中で神さまと出会う
 ◎受け入れてもらえる安心感をもち、過ごす
 ◎春の草花、虫などに触れ、心を開いていく

3・4・5歳児 4月主題 「はじめの一歩」
 月のねがい
 ◎新しい生活の場で神さまの愛を感じる時、賛美や祈りの時を心地よく感じ、安心して過ごす
 ◎これまでの関わりに重ね、新たに出会った保育者や友だちと交わる中で居場所が生まれる
 ◎光・風・草花・虫など、自然のおもしろさ・美しさを楽しむ

今月の聖句 「わたしはよみがえりです。いのちです。」

ヨハネ 11:25
 教会の一大イベントはクリスマスと、実はイエス・キリストの復活を記念するイースターの方がはるかに大きなイベントです。欧米の教会では、特にその傾向が強いのです。最近では、イースターを迎える春の季節には、日本でもコンビニやスーパーでイースターエッグのチョコレートを見るようになりました。そのように一般社会に浸透する程、教会はイースターを大切にしてきた歴史があります。イースターはいのちの尊さ、重さ、重さを寄せる時でもあります。近年、私たちは様々な出来事に遭遇する中で、いのちの尊さ、重さを思わされています。新型コロナウイルス、毎夏起こる水害、地震、そしてウクライナで起きている悲しい出来事...。これを取って見ても、いのちの尊さ、重さを考えずにはおれないものばかりです。いのちを大切に出来るかどうかは、幼児期の体験が大きく左右します。あのアドルフ・ヒトラーは複雑な家庭環境で育ち、愛情に飢えて育てられた経歴を持ちます。独裁者となってから、飼っていた犬に愛情を注ぐことが、600万人ものユダヤ人を殺す手染めした。これは、子どもに十分な愛情を受けて育つことが、ただだけ大切なことであるかを物語っています。幼少期に必要な愛情を受けて育つた子は、大人になってからも、いのちの尊さ、重さが分かりやすいです。いのちを大切に出来る大人になるように、祈ってやみません。 西之表基督教会 協力牧師 池田基宣

空気が
お母さんは
きれいな空気のように
やさしい愛を
一日じゅう注いでいる
こどもは
あたたかい空気のように
うれしい愛を
一日じゅう吸っている
どちらも気がつかずに

河野 進



4月の行事予定

2日(土)	入園式・新年度クラス会
5日(火)	父母の会役員会
8日(金)	始園式(1号午前保育)
～14日	1号新入園児慣らし保育
28日(木)	弁当日 田植え ・ 避難訓練

5月の行事予定

9日～14日	家庭訪問(3才以上)
10日(火)	誕生会(2才以上4・5月)
12日(木)	交通安全教室・弁当日
18日(火)	役員会
21日(土)	親子遠足・弁当日
	父母の会総会
28日(土)	めぐみ誕生会(4～6月) 健康診断 ・ 避難訓練

子どもの気落ちに寄り添って

新しいお友だちや先生も加わって、いよいよ新年度がスタートします！
 3月後半は新年度準備に向けて、新しい保育室で過ごしていた子どもたち。感染性の胃腸炎もあり大変な期間でしたが、その中で「お兄ちゃん・お姉ちゃんになる」子どもたちの思いが現れたエピソードを紹介したいと思います。
 ひかり組Tちゃんが年中のT君と遊びたい様子でしたが、なかなか誘えずいました。しばらくして、「そうだ！一緒に絵本を読もう」と思い、勇気を振り絞って「一緒に読もう！」と誘うことが出来ました。すると、T君は嬉しい表情を見せつつも、「Tね、字読めないよ」とちよっぴり横顔。側にいた保育者が「読めなくても大丈夫！一緒に横で見れば？」とT君が「いいんだって♪」と伝えると、嬉しそうにTちゃんの横に座って一緒に読み始めました。小さいお友だちに初めて頼られたことで困った表情もあったT君でしたが、笑顔で絵本を読んでいる姿からは、とても嬉しい出来事だったんじゃないかなと思うことでした。
 めぐみ組で大きな声で泣くこともあった1歳児のYちゃん。ひかり組で過ごした準備期間に、保育者同士で「Yちゃんあんまり泣かなくなったよね。」と話していると、本人が「Yちゃんね、泣かないの！」と笑顔で保育者に伝えに来たそうです。幼いなりに、「ひかり組さんになる！」という思いがあったことに嬉しく場面でした。
 先日、「絆が育む心の世界」というテーマでリモート研修を受けました。子どもたちのありのままの姿を受け入れ、その時々嬉しい、不安、困った、イヤ等という気持ちに寄り添うことが大切だということでした。新年度がスタートして担任や保育室などの環境が変わる中、子どもたちも嬉しい反面、不安な気持ちも出てくるかと思えます。そんな時、「いっぱい泣いていいんだよ！」と子どもたちの気持ちに寄り添える保育者でありたいと思います。今年度も子どもたちの成長していく様々な表情を見られることをみんなで楽しみにしています。今年度もどうぞよろしくお願い致します。
 冷水



つながって生きる喜び

木々の緑がキラキラと陽の光に反射しています。園庭に色鮮やかに咲き誇っている花々や遊具たちが、新しいこどもたちを歓迎しているようです。アマリリスはやっとな雷が膨らみ始め、ツツジも今年はゆっくりのようです。ご入園、ご進級おめでとうございます。改め、続くご縁と新しいご縁に心から感謝し、子どもたちの健やかな育ちを共に願ひ、平安の祈りを日々重ねていきたいと思ひます。

本年度のキリスト教保育の年間主題は、「つながって～今、わたしを生きる～」が示されました。年間主題は保育目標として位置づけられております。コロナ禍の中、つながりが断たれているように感じる今だからこそ与えられた年間主題だと思ひます。当たり前のように出来ていた事が、縮小や延期をせざるを得ない状況に置かれる。一つ一つを精査し、子どもたちにとって何が大切なのかを問いながら決断する連続でした。それでも、一通りの行事や活動が達成できたことは、まさに恵まれたこと感謝です。毎朝の礼拝の聖話やあらゆる場所、共に捧げた祈りや讃美を通して与えられる神さまとのつながり。子どもたちの豊かで健全な育ちを願ひ合う保護者の方々や職員と子どもたちとのつながり。そして、園を取り巻く豊かな自然や園内の様々な事象などの環境とのつながりを意識していきたいと思ひます。

豊かな自然の中で、感性を震わされる体験を重ねること。子ども同士、保育者とこどもたちが、思いや考えを出し合って遊びや生活を創り出すこと。そして、神さまによって与えられた子どもと命と成長の一コマを、保護者の皆さんと共有し共感できること。子どもに相応しい生活とは何かを常に考えながら、共に喜びあえればと願ひます。また、在園中に何度か耳にされる言葉、「タイケン・タンケン・タイケン」が幼児期の子どもたちには必要だ、と私たちは考へています。保育活動や行事で味わう様々な体験(出会い)。様々な事象への興味・関心と集中探検(探求)。そして、少し大変(克己)なことにも挑戦する意欲。今年もこのキャッチフレーズで共に育ち合えれば幸いです。

集団生活を初めて経験する子どもたちにとって、園生活は期待と不安の混じったものでしょう。初めての環境は大人でも緊張します。何より「だじょうぶだよ！」という言葉が安心へと導きます。「わたしは見えるものではなく、見えないものにも目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えぬものは永遠に存続するからです。」と聖書にあります。神さまが与えて下さるこの環境の中で、つながって育ち合う生活を目指して参ります。子どもたちがあがまの「自分」をしっかりと生きていけるよう祈りつつ、保護者の皆様と心を込めて寄り添うことが出来ますよう努力してまいります。

まだまだ収束という晴れ間は見えませんが、いつの日か必ず厚い雲が去り、陽光が差し込んでくる日を祈りつつ待ちましよう。感染された方への配慮も大事だと思ひます。六十五年目を迎える本年度も、職員一同心を尽くして努力して参ります。

何卒ご支援の程を宜しくお願いいたします。

学園長

令和4年度新学期がスタートしました！

私たちが保育の中で大切にしたいもの

★一人ひとりを大切に
 子どもたちは神さまから命を与えられ、愛されているかけがえのない存在です。その個性と人格をありのまま受け止め、尊重することが第一歩です。信頼関係を築くなかで、子ども自身が自分を信じ、自分らしい歩みをはじめることが出来るように、絶えず応援したいと思ひます。

★知りたい、やってみよう！！
 子どもが夢中になって、生き生きと遊ぶ事は「生きる力」に繋がります。工夫したり、悩んだり、納得するまで繰り返す中で、思考力や運動力そして、「意志」が育まれます。好奇心や探究心を大切に受け止め、子どもと共に心を動かしていきたいと思ひます。

★友だちっていいな！
 友だちと遊ぶなかで、子どもは自分と他者の違いを知っていきます。たくさんのぶつかり合いや葛藤を通して、悩み、考え、やがて理解し合い、「共に生きる」ことを学んでいきます。認め合い、力を合わせる楽しさ、喜びを味わうまでの道筋を大切にしたいと思ひます。

★神さまの恵みを知り、世界に目を向ける
 自然の美しさや不思議さに気づき、その恵みに感謝する心を育みます。けれども、世界に目を向けるとき、現実には人と自然との関係や、国と国との関係に多くの課題があります。人と自然との調和、世界の平和に、私たちがどう貢献できるのか、共に考え、祈り、やがて行動できる人になりたいと思ひます。

幼児賛美歌Ⅱより
 この花のように 美しい心を
 神さまください 小さなわたしにも
 この花のように 人々を愛せる
 心を下さい 小さなわたしにも
 園長